

# 木材コーディネーター基礎講座2024 受講者募集

森林林業  
分野

## 森林所有者目線で 持続的経営と資源価値向上に挑戦

Hさん 森林所有者に寄り添う課題解決ベンチャー企業の代表

機械メーカー研究職から一念発起。林業大学校を経て森林組合で素材生産に従事していました。森林所有者の高齢化で人工林継承の課題に直面していたころ、基礎講座で関係する業界を横断的に学びました。講座では、木材の付加価値向上を目指す先輩や仲間に出会い、山林のデータ管理や山林相続を事業の柱にする新しい会社を立ち上げて今に至ります。最近では、森林の空間利用や異業種との連携、インテリアや家具など空間デザインの付加価値向上に仲間と取り組んでいます。

Q なぜ基礎講座に参加しましたか？

A 関係業種の利益構造を学びwin-winの関係をつくるための知識や交渉力を得るため。

Q 何が変わりましたか？

A 多様な森林資源を、商品開発に直接つなげる、連携先と供給ルートが構築できた。

Q これからの目標は？

A 森林に興味を持つ若い世代が面白がって森林に関わる仲立ちをしていきたい。



木材  
製造流通  
分野

## 地域産木材のブランディングと サプライチェーンをコーディネート

Bさん 総合木材商社勤務28年 木材販売部部长

地域の中核となる総合木材商社に勤務し、長らく輸入材を中心に製造流通に従事してきました。近年、地域材に目を向け経営方針を転換しています。数年前に県行政から依頼で、非住宅建築物をターゲットにした県産材のサプライチェーン構築にも関わり始めました。県行政や業界団体と連携して、素材生産、原木市場、製造工場のネットワーク強化と、建築設計者や施工者に県産材の供給情報の提供に取り組んでいます。

Q なぜ基礎講座に参加しましたか？

A 商材のルーツである森林管理や素材生産にも一定の理解が必要だったから。

Q 何が変わりましたか？

A 建築から林業まで異業種間の言葉を翻訳する役割を担えるようになりました。

Q これからの目標は？

A 会社の枠を超えて、地域の需要と木材供給体制をつなぐ役割を担っていきたい。



木材利用  
木育・情報  
分野

## 木工所経営のノウハウを活かし 森育・木育をテーマに 木製品の企画製造販売

Mさん 資格を活かして地域の森と繋がる木育事業を展開

地元のヒノキを建材加工して工務店に販売しています。木材コーディネーターと技術士（森林部門）の資格を取得してからは、エビデンスに基づく木育玩具や木工キット販売で、木に触れる機会を子どもたちに提供しています。また、地元特有樹種を使ったアロマオイルやクラフトジンの開発では、木材コーディネーター仲間から助言も得て、数々の受賞に結び付けました。木材コーディネーターの資格を取得したことで、自治体の木材利用促進、木育事業の講師になる機会も増えています。

Q なぜ基礎講座に参加しましたか？

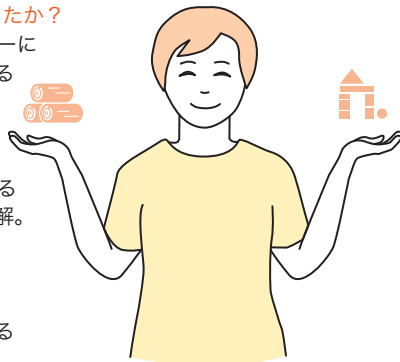
A 地域の木材をエンドユーザーに届けるために、自分が担える役割が知りたかった。

Q 何が変わりましたか？

A 森林林業と木材業界が抱える分野毎の課題についての理解。

Q これからの目標は？

A 次の世代が、木材に触れることが当たり前の社会となる「木育活動」を続けたい。



木材  
製造流通  
分野

## 輸入建材商社営業担当から 地域材小売業に転職し 木材に森と繋がる付加価値創出

Zさん 事業主や設計者に国産材情報を伝えるコーディネーター

輸入建材の商社から国産材を専門に扱う小売業者に転職する際に講座を受講しました。既製品を扱っていた頃には考えもしなかった森林の現状と課題に触れて、商材のルーツを強く意識するようになり、今では各地の木材コーディネーターを訪ね、生産者と顔の見える関係を築いています。数年前から勤務地の行政団体が設置した木材利用相談員として、事業主や建築設計者の様々な質問疑問に答え、全国の木材コーディネーターを紹介しています。

Q なぜ基礎講座に参加しましたか？

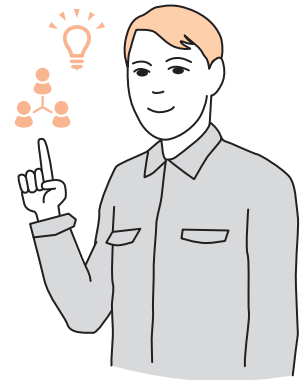
A 輸入材とは異なる特有のサプライチェーンを理解するため。

Q 何が変わりましたか？

A 森林の特徴により木材の樹種や特性や生産量が異なることに気づけた。

Q これからの目標は？

A 全国の産地が将来に引き継がれるために、小売業に何ができるか考えていきたい。



木材コーディネーター  
基礎講座を受講したら…

森と木と暮らしをつなぐ仕事 が見えてきた！